上田八木短資

ウィークリーシグナル

2026年11月27日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

（単位：億円）

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/30 (月)	▲ 200	＋ 6,700	＋ 6,500	流動性供給 国庫短期証券発行償還 （3M）	国債補完供給 400 社債等買入 ▲300	国債買入 3900	日：植田日銀総裁が名古屋市での金融経済懇談会で講演 小売売上高（10月） 鉱工業生産（10月）
12/1 (火)	トン	▲ 8,300	▲ 8,300	国債発行償還（2年）			日：失業率（10月） 有効求人倍率（10月） 米：製造業PMI（11月） 欧：ユーロ圏CPI（11月） ユーロ圏製造業PMI（11月）
12/2 (水)	トン	▲ 66,000	▲ 66,000	法人税・消費税・保険揚げ			米：ADP雇用統計（11月） 欧：ユーロ圏失業率（10月） ラガルドECB総裁、「EMERGE Europe 2026」で基調講演
12/3 (木)	トン	トン	トン				日：サービス業PMI（11月） 米：サービス業PMI（11月） 欧：ユーロ圏サービス業PMI（11月）
12/4 (金)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行（10年）			米：雇用統計（11月） 欧：ユーロ圏小売売上高（10月）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,500億円減少の409兆8,100億円から始まった。その後、国債発行等の要因により減少し27日は408兆2,100億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、1.227%から始まり、その後も概ね横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物1.210%～1.345%のレンジ、1M～3M物1.330%～1.650%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では30日に植田日銀総裁の講演、小売売上高（10月）の公表、海外では12月1日にユーロ圏CPI（11月）の公表、12月4日に米雇用統計（11月）の公表などがある。

［無担保コールレート］

	予想レンジ（%）
O/N	**1.220 ～ 1.228**
1M	**1.45 ～ 1.60**
2M	**1.50 ～ 1.65**
3M	**1.60 ～ 1.75**
6M	**1.75 ～ 1.85**

［オープン市場］

	予想レンジ（%）
現先 （on/1w）	1.2台前半
CP 3M （a-1+）	1.5~1.6台

<レポ>

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。月末を跨ぐ取引となる27日も水準に変化は見られず1.250%近辺の出合いとなった。

SC取引は2年488～490回債、5年188~189回債、10年361~372、379~383回債、20年194~198回債、30年87~92回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は4兆477億円で、週間償還額の3兆9,572億円を上回った。発行残高は、先週末時点の26兆3,140億円から、11月26日時点で26兆8,467億円へと増加した。発行市場では、不動産業・機械・食料品をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.3%台から1.5%台、3ケ月物で前週の1.5%台から上昇した結果となり、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆2,500億円となっている。発行市場は、事業法人の税払いや賞与支払い等に向けたCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

27日の3M（第1422回債）の入札は、最高落札利回り1.2706%（前回債1.2742%）、平均落札利回り1.2582%（前回債1.2617%）となった。

来週の入札は12月4日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社　登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243号　加入協会 日本証券業協会